

会議録

1 会議名

令和7年度 第8回高田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的な審議（公開）

（1）勉強会「高田祇園祭の歴史について」

（2）今後の活動について

3 開催日時

令和7年12月15日（月）午後6時30分から午後7時44分まで

4 開催場所

高田城址公園オーレンプラザ 研修室・会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）

・委員：瀧市会長、栗田副会長、廣川副会長

　　飯塚委員、上原委員、北川委員、佐藤委員、杉本委員、下村委員、

　　冨田委員、宮崎委員、村田委員、茂原委員、山岸委員、吉田委員、

　　淀野委員、渡部委員（欠席3人）

・意見交換アドバイザー：郷土研究家 佐藤氏

・事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【石黒係長】

・柴田委員、町委員、山崎委員を除く17人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【瀧市会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：瀧市会長、富田委員に依頼

— 次第2 自主的審議事項（1）勉強会「高田祇園祭の歴史について」 —

【瀧市会長】

次第2 自主的審議事項（1）勉強会「高田祇園祭の歴史について」に入る。

この件について、本日は講師として郷土研究家で「旅する祭『祇園祭』と八坂神社〈はっちょうじ〉のなぞ」の著者の佐藤和夫様をお迎えしている。高田祇園祭が継続・発展するための方策の検討に向けて、まずは知識を深めようということで、今回勉強会を開催する次第である。

【佐藤講師】

- ・スライドに基づく講話

【瀧市会長】

ただ今の講話について質疑を求める。

【茂原委員】

大体のことはわかったつもりでいるが、今年の広報上越7月号で上越まつりの記事に新潟県無形民俗文化財指定の直江津・高田祇園祭の御旅所行事と屋台巡行という見出しがあった。私が子どもの頃は祇園祭と言っていた。大人がみこしを担いで町内を回ったりしていたが、広報上越で書いてあるものと中身が少し違うなということで疑問に思っていた。今日、佐藤さんの話を聞きしたところ、広報上越とも中身が少し違うような印象を受けた。現在実際に行っていることについて詳しい話が聞けると思っていた。

【佐藤講師】

上越まつりになった理由は、市で補助金を出すということで政教分離の観点からどうなのかということが問題になって、上越まつりという一括りにした。市の立場としては上越まつりと言わないと困るのだと思うが、今時、政教分離の立場から市が補助金を出さないことはほとんどないので、個人的な意見だが、上越まつりという名称をやめるのが一番手っ取り早くいいんじゃないかと思う。補助金をもらっている

からという理由で、みこしの川下りの時に政教分離の観点から船に八坂神社の宮司さんを乗せてはいけないということがあって、何年間か宮司さんが乗れなかつた時代がある。

【茂原委員】

7月26日に稻田橋から関川の河口まで船で渡すというふうに書いてあるが、最近こんなことをやっていない。

【佐藤講師】

川の都合でショートカットしているが、原則的には川下りという形式はなくなつてない。

【茂原委員】

形式上の話で、実際は稻田橋の下から昔はやっていたのか分からないうが。

【佐藤講師】

やっている。

【茂原委員】

今はやってないと思うが。

【杉本委員】

ちゃんと船に乗せて行くが途中で上げるだけの話である。

【茂原委員】

せきがあるから川下りできなくなったと思うが。

【杉本委員】

あそこだけ、ほんの100メートルか200メートル丘を歩くだけで、あとは全部川である。それを川下りがなくなったと判断するか、やっていると判断するかの違いである。私は川下りはやっていると思っている。

【渡部委員】

東京にいた時、何かのきっかけで直江津の祇園祭がとても賑やかだということを知った。私が子どもの頃の高田の祇園祭は、子どもも多く、灯篭流しをしたりしてにぎやかだったが、去年、商工会の女性会で踊るようになって寂しいなと思った。

高田と直江津の祇園祭の歴史の流れを今の子どもたちはどの程度知っているか。

高田・直江津祇園祭となっているが、本来は直江津・高田祇園祭なのではないかと思

う。高田の人のはうが多分分かっていないというか、高田のことが好きだし、高田のことを悪くいうつもりはないが、八坂神社があって、歴史的な背景があって高田の祇園祭ができているということを知らなすぎるよう思う。去年、直江津の祇園祭で踊った時、皆さんすごく賑やかで楽しいなと思った。あの熱気を直江津・高田の祇園祭として一つの旅する祭りにならないのかなと少し残念に思うが、どうしたらいいのかアイデアがない。

【瀧市会長】

それでこの勉強会している。

【渡部委員】

それをどうしていったらいいのか、いいものがいっぱいあっても、伝統が終わってしまうのは寂しいし、子どもが少ないからと言ってそれでいいのかなというふうに思った。

【瀧市会長】

私も高田の人間でそういうふうに感じていた。直江津に祇園祭の最中に行くともうすごい。直江津の人は、一番先に祇園祭の休みを取ることを雇い主に言うという。雇うのだったら祇園祭の時は休ませてくれと。お盆は別になくてもいいという話を聞いたことがあって、直江津の人は非常に祇園祭を大事にしている。

ところが、高田に来ると祇園祭というのはどうも活気がなくなってきた。高田に57ある町内のうち、祇園祭に直接関わっているのは稻田の4町内会を入れて33町内で、残りの例えば、北城とか西城とか東城は関係がない。祇園祭というのはやはり町人の祭りであるのだろう。本町通り、仲町通り、大町通り、町人の町の祭りなので、その辺も影響しているのかと思っている。直江津から祇園のみこしが旅するようになって400年も続いている。4世紀以上続いているので、これからもずっと後世に残していくかなくてはいけないのではないかと私は個人的に思っている。どうしたらこれをもっと盛んにして存続することができるか、みんなで考えたらよいのではないかと思っている。

【吉田委員】

上越市になる前は直江津港まつりだったと思う。高田は高田祇園祭だったというような感覚でいた。直江津と高田が合併して上越まつりになったという記憶である。

私が小さい頃、高田祇園祭の時に仙台の七夕飾りを飾っていた。各班ごとにくす玉を作ったりしていた記憶がある。上越まつりになったのは合併した時か確認したい。

【佐藤講師】

合併して、当時の市長の発案で補助金を渡すということと川下りを復活させたいという市長の強い思いがあって、市で後押ししようということになったのだろうかと思う。直江津で昭和30年代に港まつり祇園祭という名称に一応変えたが、そぐわないということで廃れていって祇園祭になった。誰も港まつりという人はいなくなつた。

【瀧市会長】

ほかに質疑を求めるがなし。

以上で、次第2 自主的な審議（1）勉強会「高田祇園祭の歴史」についてを終了する。

— 次第2 自主的な審議（2）今後の活動について —

【瀧市会長】

次第2 自主的な審議（2）今後の活動についてに入る。

前回の協議会でいただいた意見等をとりまとめ、「検討時期」として優先順位をつけながら資料No.1のとおりまとめた。このような進め方でよいか意見を求める。これは案であり、必要に応じて変更していきたいと思う。

項目別にみると、今日と次回は高田祇園祭が継続・発展するための方策を検討するという議題を話し合いたいと思っている。2番目に大雪に対する準備がどうなっているのか再度確認・点検ということで、前回の協議会で取り上げられたことを今日と必要であれば次回以降に議論したいと思う。3番目に淀野委員から提起があった青田川の河川敷地内の管理について、今は冬になってなかなか現地を見る機会がないが、これについても管理等の状況が分かつてきたので、それをもとに我々としてどう考えるか来年の3月以降に話し合いたいと考えている。4番目に将来的な活用に向けた古い建物等の保存について、せっかく歴史的な建物があるのにそれをみすみす壊していくというのは非常に残念だということで吉田委員から提案があった。地域

協議会としてどのように考えたらいいのか、どういうふうにしたらしいのかということも話し合っていきたいと思う。

最後、富田委員から地域協議会と市民との意見交換について提案があった。非常に前向きな提案だと思う。ただ、いろいろ制約があって地域協議会の役割というのは条例に書いてあるが、そういうことを考えるとどこまでできるのか。どこの協議会も月1回くらいしか開催していないが、それ以上やる必要があるのかどうか。皆さん、それぞれの意見があると思う。これも3月以降、話し合っていきたいと思う。

- ・委員の意見を求めるがなし

今日は、今後こういう予定で進めるということを皆さんに了解いただきたい。

それでは、本日は二つ目に記載してある「大雪に対する準備がどうなのか再度確認・点検」を話し合いたいと思う。参考として配布した令和4年度第6回高田区地域協議会の資料1について、これは高田区において必要な大雪対策についてということで、令和4年に市に提出した意見書への回答である。これを基にどういう点について心配があるか意見を伺いたい。

私は、5、6、7が我々の生活に直結してくるのではないかと思う。5は一斉雪降ろしで、これに絡むのは町家というか家が連たんしているところ、雁木になっているところかと思う。先日、一斉雪降ろしをどういうふうに実施するかという話し合いがあったと杉本委員から聞いている。私はある程度の準備ができているのではないかと理解している。

6、7は令和4年1月の大雪の時にほとんどの地域で車が通れなくなって買い物に行けなくなった期間が1週間から10日間あった。災害の場合に備えて、市では最低3日間分の食料を備えておいてくださいと呼びかけているが、私の住む所では家の前の道を車が通れるようになったのは10日後だった。買い出しに行けたのは1週間後で普段の倍の時間をかけて買い物に行ったが、商品棚が全部空っぽになっていて何も買えなかつたということを経験している。あのような雪が降ると3日間の食料の準備では足りないのではないか。そういう経験から、もう少し市民に対して注意喚起をしてもらったらどうかと思って事務局と話したが、それは難しいのではないかという返答だった。

委員に意見を求める。

【杉本委員】

先日、町内会長を集めて行われた会議の資料の中で、一斉雪下ろしに関する部分だけ皆さんに配布したほうがよいのではないか。現物を見てどこに問題があるかを見たほうがよいと思う。

【瀧市会長】

私はそういう地域に住んでいないから、そういう資料をもらっても、どういうところに問題があるかわかるものかどうかというのがある。

今、資料がないので次回の話し合いでよいか。

【杉本委員】

雪対策室から資料をいただいて、コピーを配布してほしい。

【瀧市会長】

何ページくらいなるのか。資料を見ても、そういうところに住んでいないので気づきにくいと思うのだが、皆さんはいかがか。

【杉本委員】

それは、町内会長しか持っていない。町内に配っているわけではない。

【瀧市会長】

それを読むとどういう問題点がわかるのか。

【杉本委員】

実態が分かる。もし大雪になったら市が何をするか。簡単に言うと、前回大雪の時は、一斉雪下ろしをやると決定してから排雪が完了するまでに 14 日間かかった。それを 4 日間短縮して 10 日間にするという。

【瀧市会長】

もっと短くできるのではないか。

【杉本委員】

そうである。雪下ろしをやりますという前に、事前に準備できることがもっとあるのではないか。その辺の実態を見てもらいたい。

【石黒係長】

その資料を地域協議会で配布してよいか担当課に確認する。

【杉本委員】

何もないところで空中戦をやっていても仕方がない。

【瀧市会長】

それはそのとおり。実際4年前に10日間ほど交通が全く閉ざされた。ところが、それについては一生懸命やりますとしか書いていない。

【飯塚委員】

私のところは1週間も食べ物が来ないとかそういうことはなかった。スーパーに行けばあった。場所によっては除雪車が行かなかつたが、道路も通れた。

【瀧市会長】

大きな道路が通っているところだから。

【宮崎委員】

2021年の大雪災害の検証結果に除雪計画が書かれている。

【瀧市会長】

これを読んでもわからない。むしろ我々がこれを読んでまとめた意見書のほうが役に立つ。その意見書について市が回答してくれたもののほうがよほど役に立つ。だから、私はこれを皆さんに読んでいただきたい。私が気になるのは一斉雪降ろしの話と交通が途絶する地域があることである。

【北川委員】

会長のほうから食料品の話があった。今年の夏、水不足で節水になり給水場ができる。先日、東北で大きな地震があったが、大雪の中で給水場に水を汲みに行っているニュースが出ていた。渴水ではないが、大雪の時に何らかの原因で水道が止まった時の体制が、令和4年の回答にも自助というのが出ているが、自助も含めて、考えていかなければいけないかなと思う。

【瀧市会長】

大雪災害の上に地震とかあった場合、そういうことを考える必要があると思うが、我々が騒いでも市はどうなのか。

【飯塚委員】

3日分を確保しておけば、あとは市や県が何とかすると。

【瀧市会長】

市は最低3日分の食糧を用意しておいてくださいと言うが、10日間も車が入れ

なかつた。残りの7日間どうやって生きているのか。

【飯塚委員】

4日目には行政が動き出すではないか。水もない状態のままにはしておかないのでないか。

【瀧市会長】

水ではなく食料の場合、雪があつて配送できないではないか。

【飯塚委員】

行政がすると言つてはいるではないか。

【瀧市会長】

言つてはいるけども信用できない。10日間何もできなかつたではないか。4年前と今と体制が変わるか、むしろ人員が減つてはいるではないか。

【上原委員】

NHKでも今回の広報上越でも、災害に備えて最低3日間、できれば1週間分の水と食料を用意しておくように呼びかけているが、何も防災食を用意してくださいと言つてはいるわけではない。レトルト食品や乾物など皆さんのが日頃食べているものをローリングストックと言つてはいるが、それを用意してくださいと言つてはいる。

【瀧市会長】

上原委員は防災士なので分かるが、一般市民は分からぬ。

【上原委員】

今回の広報上越に全て載つてはいる。12月号をご覧になつていただきたい。

【瀧市会長】

1週間分。冬なのでついでに米を少し余計に買っておいてもよいかと思う。

【飯塚委員】

たいていの家は1週間分くらい食料はあると思う。

【瀧市会長】

ほかに意見を求めるがなし。

一斉雪降ろしの件について、資料を次の協議会の1週間くらい前に配付していたので、引き続きこの議論をしたいと思っている。

次回は、佐藤講師から貴重なお話をいただいた祇園祭の話について、さらに我々が

何ができるかということを議論したいと思う。大雪についても、必要があれば議論したいと思う。

以上で、次第2 自主的な審議（2）今後の活動についてを終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【瀧市会長】

次第3 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

第9回地域協議会：1月19日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

第10回地域協議会：2月16日（月）18：30から

高田城址公園オーレンプラザ

【瀧市会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・全体を通して質問等を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail:nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。